

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K04622

研究課題名(和文) マジョリティに向けた多様化社会の公正教育の在り方：複合的考察

研究課題名(英文) Multicultural education for the majority: Multiple perspectives

研究代表者

坂本 光代 (SAKAMOTO, Mitsuyo)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：30439335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：社会的多様性が高まる中、望ましい多文化共生の形を考察するにあたり、従前の少数派(マイノリティ)に照準を合わせ、相手に変化を期待するのではなく、多数派(マジョリティ)の意識改革を企図した。結果、メンバー6名から成る「教育政策」(マクロ)・「特権の可視化」(心理)・「社会の実態」(ミクロ)と3つの連関した側面から考察した成果を『多様性を再考する：マジョリティに向けた多文化教育』(上智大学出版)にまとめ、マジョリティが無意識に抱いてきた特権を意識化・疑問視する必要性を訴え、他者と共に学び発展できる可能性を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多文化共生は従前少数派が多数派社会に迎合することを一方的に求める傾向があったが、多文化共生社会を実現する上で必至とする多数派の意識改革に臨み、多くの人々に「マジョリティ特権を持つ自分」を認識してもらうことに注力した。

数々の講演を全国各地で行い、マジョリティ特権の意識化に貢献することができたほか、国内外から著名な研究者を招聘することで、学内外の専門家や学生らと知見を共有することに成功、本研究成果のまとめとして図書『多様性を再考する：マジョリティに向けた多文化教育』を刊行し、より広い読者に働きかけ、「一方的ではない、相互理解・尊重から生まれる多文化社会」のあり方を講じることができたと考えている。

研究成果の概要(英文)：In considering the desirable form of multicultural conviviality in the midst of increasing social diversity, we did not focus on the existing minority group, expecting them to change, but rather attempted to raise the awareness of the privileged, majority group. As a result, the six-member team published "Rethinking Diversity: Multicultural Education for the Majority" (Sophia University Press), which examined the issue from three interrelated aspects: "educational policy" (macro), "visualization of privilege" (psychological), and "social reality" (micro). The book addresses the need to raise awareness and question the privileges that the majority has unconsciously held, discussing the possibilities for learning and developing together with others.

研究分野：教育学

キーワード：マジョリティ 多様性 特権 言語 多文化教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 国際化と法律改正：

グローバル化が進む中、近年「多様性」や「国際化」がもてはやされ、肯定的に語られてきた。更に平成30年に出入国管理法の改正が成立、翌年より新しい在留資格による外国人労働者の受け入れが施行されたことに伴い、定住目的で来日する外国にルーツを持つ人々との共生を考える必要性が高まった。しかし、従前の多文化共生に関する議論は日本人(マジョリティ)ではなく、マイノリティ側の変容を期待し、強制してきた。しかし、様々な価値観を持つ人々との共生を実現するためには、マジョリティ側の人々の持つ特権(労なくして得られる優位性)自体を問題化し、支配集団の特権を生み出し、擁護し、持続させる仕組みの追求・研究に正面から取り組む学問がプリビレッジ・スタディーズであり(McIntosh, 2013)、本研究はこのプリビレッジ・スタディーズの功績を受け継ぎ、日本社会に应用を試みるものと位置付けている。日本においてもマジョリティ側、つまりは特権を有している側の意識改革が急務だとして、本研究テーマ「マジョリティに向けた多様化社会の公正教育」を立ち上げた。

(2) 複合的考察の必要性：

北米や欧州など、多文化社会が長年の歴史を経て確立した国々と比べ、近年の日本における多言語・多文化共生は、まだ発展中である。日本における多文化共生の実態と理想を考察する上で、一元的な、管見な解釈を避けるべく、まずは教育政策・心理・社会文化の側面から本研究テーマを取り上げる必要性を感じた。

2. 研究の目的

(1) 移民政策・教育政策など、様々な政策は国の国益を優先する自由主義に基づくものであるが、短期的ではなく、長期的な視点から、日本人と日本に新たに定住する人々双方が発展・繁栄する上での課題を認識し、その対応法を考察する。

(2) 日本における民族・人種的マジョリティ(すなわち「日本人」)の人々の持つ特権の自覚を促すような尺度を開発し、特権の有無を尺度で数値化することにより、日本の民族・人種的マジョリティ・マイノリティとの間で優位差が認められる尺度を開発することにより、「ふつう」「当たり前」として可視化されていない民族・人種的特権を可視化する。

(3) 現在の実態について調査し、意識化を促す措置がどのように作用するかの検証を記録する。

3. 研究の方法

コロナ禍での研究であったため、申請時に予定していた国内外でのデータ収集には制約があったものの、3グループは下記の通り研究を行った：

(1) 教育政策研究：

コロナ禍では文献調査を中心とし、他国の教育政策事例や教育理論などを参考に、日本における多文化・多言語教育の在り方を模索した。また国際教育の視点から、多言語・多文化国家であるマレーシアと日本を比較し、外国につながる人々の受け入れと多文化共生のための教育施策を実施するための課題と対応について考察した。

(2) マジョリティ研究：

米国における白人特権の議論を参考にし、既に関与されている白人特権尺度(White Privilege Scale; WPS)を基に、「日本人特権尺度(Japanese Privilege Scale; JPS)の開発に取り組んだ。文献の包括的なレビューやワークショップで生成された「日本人特権」項目をもとに300近い項目数を生成し、そこから法的権利、社会参加、教育、文化・言語・アイデンティティ、真正性、差別の6つのカテゴリーに整理し、マイノリティ当事者の専門家による「内容的妥当性」「わかりやすさ」を評価してもらい、52項目(法的権利4項目、社会参加10項目、教育9項目、文化・言語・アイデンティティ10項目、真正性11項目、差別8項目)に最終的に絞り込んだ。

(3) **社会文化研究：**

短期大学並びに外国人支援の NPO での実態把握としてアンケートとインタビューを行い、上記(2)で開発した JPS を、多様性を反映するグループに実際実施し、相違点をまとめた。

1. 研究成果

(1) **望まれる英語教育改革への提言：**

昨今日本では内容言語統合学習(Content Language Integrated Learning; CLIL)が推奨されており、英語で授業を行うことが促されてきた。欧州で開発され、複言語主義(Plurilingualism)に基づいた CLIL は、母語話者の話す言語ではない、言語学習者独自の外国語というものを肯定している。しかし、CLIL に基づいた日本の英語教育は、国際化が加速する中、世界の「英語化」に寄与するだけでなく、まだまだネイティブスピーカーを規範とする社会の中、「英語化」は低賃金で雇用し、安易に解雇できる労働者を必要とする新自由主義に迎合するものである(Flores, 2013)と同時に、英語帝国主義(Phillipson, 1992, 2008)を推し進めている現状があると指摘し、英語を介した世界観の構築に継承を鳴らした(これに基づき、Sakamoto (2022)を執筆、発表)。また、多言語・多文化国家であるマレーシアを事例として、導入されているバイリンガルプログラム(Chan & Abdullah, 2015)などに着目し、その長所・短所を検証した。グローバル化には寄与しつつも、英語の導入と国際化が留学生や外国人労働者など新たな人の移動を生み、社会経済やエスニック・グループ、ジェンダーなどをめぐり様々な格差や課題が生じていることを明らかにした。そして、教育施策の実施においては、マジョリティの視点とマイノリティの視点の対等な関係性を重視し、相互理解と目的意識の共有を土台にした双方向の多文化教育を通じて、持続可能な社会の担い手を育てる教育が重要であることを指摘した。

(2) **日本語教育の課題の考察：**

日本における英語教育がエリート育成に傾倒したものであるとは反対に、日本における日本語教育は労働者育成が目的となっている。結果、昨今「やさしい日本語」の使用が注目を浴びている。確かに分かり易い、平易な表現を多用することで、外国にルーツのある人々と意思の疎通は実現しやすくなる。しかし、暫定的な措置ならともかく、「やさしい日本語」止まりとなることは、マジョリティ優遇政策の一環として批判した。

(3) **特権の概念の可視化：**

北米での白人主義は問題視され、可視化活動がされてきたものの、日本人の特権の意識化はまだ進んでいないことを踏まえ、白人特権尺度(WPS; Swim & Miller, 1999)に基づき、6 カテゴリー(法的権利、社会参加、教育、文化・言語・アイデンティティ・真正性：差別)、52 項目から成る日本人特権尺度(JPS)を開発し、東京都内の私立大学の学生を対象にパイロット調査(N=221)を実施した。カテゴリーによる項目数のばらつきや、サンプルの偏り(国籍・人種・言語など)などが課題として残ったものの、尺度の内的整合性の値($\alpha=.932$)が良好で、かつ尺度の総得点の比較において、日本人特権の3種(国籍、民族・人種、言語)を有している側と、日本人特権を有していない側との回答値に有意差が出たことでこの尺度の項目において特権を有している側、有していない側とを差別化することが可能であることが証明された。また、大学の小学校教員養成課程の必修授業で、「特権体験ゲーム」を実施し、特権がある・ない状態に関する体感的な理解が深まり、それぞれの立場によって生じた異なる体験を共有し合うプロセスが、特権の意識化に重要であることを示すことができた。受講生の意識化は進んだものの、実際の社会での事象と結びつけることの難しさが課題として残った。

(4) **教育現場の実態：**

様々な言語・文化背景を持つ学生(N=13)を対象にアンケート(5項目)とインタビュー(N=2)を行ったところ、日本生まれまたは長期に日本に居住経験がある者であっても、彼らのニーズ(いじめへの対応や学習における弱点の払拭など)が可視化されていないことを指摘した。よって、言語文化的多様性を持つ学生の可視化とエンパワメント、言語文化的多数派の意識変革を促す教育、教員側の意識改革が必要との結論に至った。また、JPS を使って、短大生と同校の卒業生(N=150)に対して調査し、概ね多数派と少数派の得点に有意な差が認められ、また、参加者の言語文化的属性によって異なることも分かった。

(5) **多文化化に対応している自治体の試み：**
外国にルーツを持つ人々が多い地区として、横浜市鶴見区の取り組みを例に取り上げた。とりわけ2000年に創立したNPO法人ABC Japanに着目し、フリースクールや学習支援、進学ガイダンスやパンフレット作成、日本語講座や資格試験対策講座などのキャリアアップ支援などを手掛ける彼らの活動を中心にまとめた。

(6) **講演会&シンポジウム：**
国内外から著名な学者を招聘し、言語学や心理学、社会学等様々な視点から本研究課題について講演してもらった：

*2016年12月10日：久保田竜子（ブリティッシュコロンビア大学大学院）
”Paradoxes of language learning: Xenophobic nationalism and neoliberal multiculturalism”

*2017年11月11日：Joseph Lo Bianco（メルボルン大学大学院）
”Multilingualism, the literacy of the 21st century”

*2018年5月11日：Kim A. Case (University of Houston-Clear Lake)
”Teaching about privilege and infusing intersectionality”

*2018年6月15日：スエヨシ・アナ（宇都宮大学）
「ペルーへ帰国した子どもの家庭・教育環境・進路：多文化共生と教育問題」

*2021年12月18日：「マジョリティに向けた多様化社会の教育」シンポジウム
基調講演：久保田竜子（ブリティッシュコロンビア大学大学院）
「レイシズムに対抗するために：多数者の視点から」

*2022年1月22日：岸政彦（立命館大学（当時））
「聞くことと書くことの間で：生活史は何を「再現」するのか」

(7) **図書：**
本研究課題をまとめた図書を上智大学出版より刊行することができた：
坂本光代（編著）(2021)『多様性を再考する：マジョリティに向けた多文化教育』
上智大学出版

目次：

はじめに 多様化社会に向けての現状と課題（坂本光代）

第1部 マクロ的考察：言語教育と教育政策

第1章 外国語教育へのアプローチ：排他的対包摂的言語政策の相克（坂本光代）

第2章 言語教育政策をめぐるマジョリティとマイノリティ：

多民族社会マレーシアの英語教育政策の事例（杉村美紀）

第3章 真の多文化共生を目指して：望まれる言語教育と教育政策（坂本光代・杉村美紀）

第2部 特権の可視化：日本人に向けた意識化への働きかけ

第4章 「特権」の概念：北米社会と白人特権の考察（出口真紀子）

第5章 特権を意識する：日本の大学生における授業実践を通して（渋谷 恵）

第6章 日本人の特権を可視化するための尺度の開発（出口真紀子・渋谷 恵）

第3部 ミクロ的考察：「特権」の観点から見たマジョリティとマイノリティ

第7章 大学における言語文化的多様性：日本育ちの外国につながる大学生（宮崎幸江）

第8章 多文化共生社会への想像力：横浜市鶴見区の事例から（田村梨花）

第9章 言語文化的多様性と少数派の学生の「日本人特権」に対する意識（宮崎幸江・田村梨花）

第4部 マクロとミクロ：社会的に醸成される差別

第10章 レイシズムに対抗する多数派の立ち位置と責務（久保田竜子）

おわりに 現状に疑義を呈す：真の多様化社会の実現に向けて（坂本光代）

なお、本書は、令和5年3月25日にオンラインで開催された異文化間教育学会の読書会「著者と語ろう会」に選書され、坂本・杉村・出口・渋谷・宮崎の5名が参加、6月18日にはオンラインで開催予定の第59回日本比較教育学会のブックトークセッションに招かれ、図書を紹介することが決定している。

< 引用文献 >

- Chan, S. H., & Abdullah, A. N. (2015). Bilingualism in Malaysia: Language education policy and local needs. *PERTANICA Journal of Social Sciences & Humanities*, 23(S), 55-70.
- Flores, N. (2013). The unexamined relationship between neoliberalism and plurilingualism: A cautionary tale. *TESOL Quarterly*, 47(3), 500-520.
- McIntosh, P. (2013). Teaching about privilege: Transforming learned ignorance into usable knowledge. In K. Case (Ed.), *Deconstructing privilege: Teaching and learning as allies in the classroom* (pp. xi-xvi). Routledge.
- Phillipson, R. (1992). *Linguistic imperialism*. Oxford University Press.
- Phillipson, R. (2008). The new linguistic order: English as an EU Lingua Franca or Lingua Frankensteiniana? *Journal of Irish and Scottish Studies*, 1(2), 189-203.
- Sakamoto, M. (2022). The missing C: Addressing criticality in CLIL. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 25(7), 2422-2434.
- Swim, J.K., & Miller, D. L. (1999). White guilt: Its antecedents and consequences for attitudes toward affirmative action. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 25, 500-515.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Sakamoto, M., & Furukawa, G.	4. 巻 110
2. 論文標題 Native speakers aren't perfect': Japanese English learners' identity transformation as English users	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 System	6. 最初と最後の頁 102921
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.system.2022.102921	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村梨花	4. 巻 44
2. 論文標題 「生きる」保障を政治に求める連帯の力 コロナ禍におけるブラジルの市民社会組織の活動から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イベロアメリカ研究	6. 最初と最後の頁 37-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M., & Furukawa, G.	4. 巻 2022
2. 論文標題 (Re)imagining oneself as an English user: Identity formation of Japanese English learners	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Englishes	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13488678.2021.1989547	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M., & Takakuwa, M.	4. 巻 6
2. 論文標題 Forming a personal multicultural ideology: The case of a Japanese student	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Belonging, Identity and Diversity	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 161
2. 論文標題 「マジョリティ側が陥りやすい『多様性』の罠」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国際人権ひろば』	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎幸江	4. 巻 43
2. 論文標題 サービスマーケティングによる地域貢献 正課カリキュラム化までの経緯と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智大学短期大学部紀要	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lupas, M., & Miyazaki, S.	4. 巻 41
2. 論文標題 Research note on SUJCD and foreign residents in Hadano, 1987-2007: Preliminary contextualization	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia University Junior College Division Faculty Journal	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷恵	4. 巻 41
2. 論文標題 共生の観点を基礎とした社会教育の構想 社会変化に対応した多様な学習機会の創出に向けた一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 62
2. 論文標題 マジョリティの特権を可視化する～差別を自分ごととしてとらえるために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京人権啓発企業連絡会 『明日へ』	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 62
2. 論文標題 「内田龍史 著 被差別部落マイノリティのアイデンティティと社会関係」(書評)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 解放出版社 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Deguchi, M., & Matsumoto, C.	4. 巻 Vol18Issue18No15
2. 論文標題 Voices of sanitation workers in Japan amidst the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Journal Japan Focus	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 -
2. 論文標題 マジョリティ側から部落差別を考える：立場と特権の心理学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都教育庁地域社会支援部生涯学習課 『みんなの幸せをもとめて：同和問題(部落差別)をはじめ人権問題を学ぶために』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M.	4. 巻 32.496
2. 論文標題 Review of "Heritage languages and their speakers" (2020) by Maria Polinsky	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Linguist List	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M.	4. 巻 25
2. 論文標題 The missing C: Addressing criticality in CLIL	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Bilingual Education and Bilingualism	6. 最初と最後の頁 2422-2434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13670050.2021.1914540	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M., & Saruhashi, J.	4. 巻 69
2. 論文標題 Applying translanguaging concepts in language education in Japan: A discussion on perspectives behind recent case studies.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sophia Linguistica	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fegan, C., & Sakamoto, M.	4. 巻 53
2. 論文標題 Addressing translanguaging in CLIL: A Japanese ethnographic study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Language Teaching	6. 最初と最後の頁 524-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S026144482000035X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猿橋順子 & 坂本光代	4. 巻 105
2. 論文標題 トランスランゲージングの遂行性：国際的なトークショーのディスコース分析を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 25-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Review of "Japanese language and soft power in Asia"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 newbooks.asia (International Institute for Asian Studies)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮崎幸江	4. 巻 15
2. 論文標題 「日本育ちのリマ帰国生の日本語会話力 JSL対話型アセスメント (DLA) を用いた分析」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『母語・継承語・バイリンガル教育研究』	6. 最初と最後の頁 76-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村梨花	4. 巻 1426
2. 論文標題 2018年ブラジル大統領選挙と社会的公正を求める市民の行動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ時報	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷恵	4. 巻 40
2. 論文標題 多文化社会における生涯学習の課題 多様な学習機会の検討に向けた基礎的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本光代	4. 巻 279
2. 論文標題 多文化の子どもと教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『時報・市町村教委』	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M., & Saruhashi, J.	4. 巻 67
2. 論文標題 Exploring concepts in translanguaging: An alternative view	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sophia Linguistica	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 6367
2. 論文標題 近年のマレーシアの教育改革動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『知識探訪 多民族社会の横顔を読む』The Daily NNN マレーシア版	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ochoa, D. P., Manalastas, E. J., Deguchi, M., & Louis, W. R.	4. 巻 13
2. 論文標題 Mobilising men: Ally identities and collective action in Japan and the Philippines	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Pacific Rim Psychology	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/prp.2018.30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 渋谷恵	4. 巻 明治学院大学心理学部付属研究所 特別研究所プロジェクト報告書
2. 論文標題 多文化化する学校におけるマジョリティ特権の検討に向けて 「日本人の特権を考える」ワークショップ の実践と今後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床センターにおけるグローバル化および内なる国際化に関する探索的研究	6. 最初と最後の頁 93-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎幸江	4. 巻 15
2. 論文標題 日本育ちのリマ帰国生の日本語会話力 - JSL対話型アセスメント (D LA) を用いた分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村梨花	4. 巻 58
2. 論文標題 ブラジルにおける地域連携に基づく多様な教育空間の創造と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村梨花	4. 巻 101
2. 論文標題 ブラジルの教育改革 教育の民主化と地域社会との連携	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 100-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto, M.	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 How effective is interactive learning?: Investigating Japanese university students' language patterns in a collaborative writing task	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IAFOR Journal of Language Learning	6. 最初と最後の頁 115-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22492/ijll.3.2.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 52
2. 論文標題 グローバル化時代における国民国家と教育制度の変容 マレーシアの初等中等教育の理数科科目における教授言語問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『上智大学教育学論集』	6. 最初と最後の頁 65-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 133
2. 論文標題 差別に対する無関心を関心に変えるためのマジョリティに向けた教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際人権広場	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 747
2. 論文標題 アメリカの大学キャンパスで広がる『自分の特権を自覚せよ』運動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Deguchi, M.	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 Social justice education in a “homogeneous” society: Does teaching about privilege work in Japan?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Intercultural Management Quarterly	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 670
2. 論文標題 マイノリティ側到人権教育の責任を押しつける加害性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同和教育であい(人権文化を拓く)	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊澤明香・宮崎幸江・松田真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 複言語・複文化社会ブラジルにおける日系の子どもの日本語能力の多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『論集：南米日本語教育シンポジウム2017：南米における日本語教育の現在と未来 - 日系社会のポテンシャル』	6. 最初と最後の頁 133 - 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 -
2. 論文標題 差別発言が許される「空気」をつくるのは誰か	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 あしはら (部落解放・人権大学講座)	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口真紀子	4. 巻 731
2. 論文標題 マジョリティがマジョリティの特権を追及する責任	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放 (コラム『水平線』)	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Deguchi, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Teaching about privilege in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Readings on diversity issues: From hate speech to identity and privilege in Japan	6. 最初と最後の頁 94-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Deguchi, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Microaggressions in a Japanese context	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Readings on diversity issues: From hate speech to identity and privilege in Japan	6. 最初と最後の頁 130-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計67件（うち招待講演 32件 / うち国際学会 31件）

1. 発表者名 Hiasa, A., & Sakamoto, M.
2. 発表標題 Conceptualizing and understanding ALT in Japan
3. 学会等名 Language Policy & Planning 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本光代
2. 発表標題 豊かな人生を送るために：バイリンガル子育ての課題
3. 学会等名 豪州繫生語研究会・シドニー国際交流基金セミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 Language policy as a key enabler of international higher education for an equitable education system
3. 学会等名 AERA Conference in collaboration with WERA Focal Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakamoto, M., & Takakuwa, M.
2. 発表標題 Challenging English imperialism and promoting multilingualism in Japan
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 23 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sakamoto, M.
2. 発表標題 Defying decontextualization, depoliticization and colonialism in plurilingual Brazil: Narratives of fourth-generation Nikkei Brazilians
3. 学会等名 AILA 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本光代・杉村美紀
2. 発表標題 望まれる言語教育と教育政策
3. 学会等名 マジョリティに向けた多様化社会の教育シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 Teaching about male privilege in the Japanese classroom
3. 学会等名 JALT (Japan Association for Language Teaching) Conference workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 What is Japanese privilege? Privilege construct in a Japanese context
3. 学会等名 JALT (Japan Association for Language Teaching) Conference Plenary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 Privilege awareness and intersectionality in the Japanese context
3. 学会等名 SIETAR Japan, 中部支部 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 出口真紀子・渋谷恵
2. 発表標題 日本人特権チェックリストの開発
3. 学会等名 マジョリティに向けた多様化社会の教育シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮崎幸江・田村梨花
2. 発表標題 日本の大学生の「日本人特権」に対する意識 言語文化的多数派と少数派の比較
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2021 年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮崎幸江・田村梨花
2. 発表標題 多言語多文化社会研究グループ報告
3. 学会等名 マジョリティに向けた多様化社会の教育シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮崎幸江
2. 発表標題 日本語指導協力者によるCLD児のエンパワメントー神奈川県で日越バイリンガルとして成長した若者の事例
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2020年度年次大会企画パネル (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 Diversified qualitative learning in international higher education for sustainable development at Sophia University
3. 学会等名 ASEF Regional Conference Expert Group Meeting 3 (ARC-EG3) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渋谷恵・出口真紀子
2. 発表標題 「日本人」の特権を考える 特権の自覚を促すための試み
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fegan, C., & Sakamoto, M.
2. 発表標題 Addressing translanguaging in CLIL: A Japanese ethnographic study
3. 学会等名 アメリカ応用言語学学会 (AAAL2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Sakamoto, M.
2 . 発表標題 Monolingualism to translanguaging and beyond: Exploring perspectival evolution of what it means to know languages
3 . 学会等名 Simposio Internacional sobre Ensino-aprendizagem de Língua Japonesa como Língua de Herança, Identidade e Bilinguismo (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Sakamoto, M., & Saruhashi, J.
2 . 発表標題 Applying translanguaging concepts in language education in Japan: A critical perspective on a recent trend
3 . 学会等名 Multidisciplinary Approaches in Language Policy and Planning Conference 2019 (LPP 2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Sugimura, M.
2 . 発表標題 Global citizenship education in the era of migration
3 . 学会等名 International Communication and Community Development Conference (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Sugimura, M.
2 . 発表標題 Migration and displaced people's education—Comparative perspectives—
3 . 学会等名 The WERA 2019: Focal Meeting in Tokyo (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎幸江
2. 発表標題 日本育ちの外国にルーツを持つ学生への言語・文化教育
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会課題研究「グローバル時代における言語・文化教育：留学生教育・外国にルーツを持つ学生に対するプログラムの多様な評価方法をめぐって」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎幸江
2. 発表標題 日本育ちの子どもの日本語力とペルー帰国後の適応
3. 学会等名 Simposio Internacional sobre Ensino-aprendizagem de Langua Japonesa como Langua de Heranca, Identidade e Bilinguismo (EJHIB2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Deguchi, M., & Shibuya, M.
2. 発表標題 Teaching about 'Japanese privilege' in higher education: Contextualizing privilege to the Japanese context
3. 学会等名 Conference: Does "Invisible Privilege" Travel? Looking Beyond the Geographies of White Privilege (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 特権×ダイバーシティ 自分の特権に気づくために
3. 学会等名 異文化間教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出口真紀子 (パネリスト)
2. 発表標題 第40回異文化間教育学会全国大会：公開シンポジウム「異文化間教育とダイバーシティ」
3. 学会等名 異文化間教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 Resistance, self-awareness, and change: The processes of coming to terms with male privilege for male college students
3. 学会等名 異文化コミュニケーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渋谷恵
2. 発表標題 多文化共生社会に向けた生涯学習の課題
3. 学会等名 日本生涯教育学会第40回大会「生涯学習政策研究フォーラム」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakamoto, M.
2. 発表標題 How do you actually design a language policy? A document analysis
3. 学会等名 Language, Policy & Planning (LPP 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 The comparative factors of education policy to the voluntary migration: The case studies of foreign workers in Japan and Malaysia
3. 学会等名 The 2nd WCCES Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 Environmental adaptation support and infrastructure improvement for international students
3. 学会等名 Japan-Spain Presidents' Joint Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Deguchi, M., & Hata, M.
2. 発表標題 Making the invisible visible: Japanese college students' recollections of the racial 'Other.'
3. 学会等名 2018 SIETAR Japan World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Deguchi, M., & Mizuki, R.
2. 発表標題 Japanese college students' assumptions about race and racial categories: Implications for teaching
3. 学会等名 18th Annual Diversity Challenge Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizuki, R., & Deguchi, M.
2. 発表標題 Challenging anti-Buraku discrimination: Examining the effects of a human rights education course
3. 学会等名 18th Annual Diversity Challenge Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷 恵
2. 発表標題 日本の学校における多文化化・多言語化の進展と教育の課題 外国人児童生徒教育の現状を中心に (学会企画シンポジウム「発達障害と外国人児童生徒教育」)
3. 学会等名 日本LD学会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyazaki, S.
2. 発表標題 Multilingual and multicultural ability of returnees from Japan
3. 学会等名 XVI CONGRESO INTERNACIONAL DE ALADAA LAS NUEVAS FRONTERAS DE LA INTERCULTURALIDAD: ASIA Y AFRICA DESDE AMERICA LATINA (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村梨花
2. 発表標題 ブラジルにおける地域連携に基づく多様な教育空間の創造と課題
3. 学会等名 日本比較教育学会第54回大会公開シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村梨花
2. 発表標題 市民の視点からみた2018年ブラジル大統領選
3. 学会等名 イベロアメリカ研究所主催講演会『ブラジルはどこへ向かうのか 2018年大統領選挙を終えて』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakamoto, M.
2. 発表標題 What heritage language policy?: Japan's non-action towards heritage language maintenance
3. 学会等名 Multidisciplinary Approaches in Language Policy and Planning Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 Education for overseas Chinese in the age of migration
3. 学会等名 International Society for the Study of Chinese Overseas 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 マレーシアにおける人の国際移動と教育政策
3. 学会等名 第1回東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Manalastas, E.J., Ochoa, D.P., Deguchi, M., Qumseya, T., & Louis, W. R.
2. 発表標題 Ally collective action and stigma in the Philippines, Japan, and New Zealand
3. 学会等名 2017 Asian Association of Social Psychology Annual Conference (AASP) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ochoa, D.P., Deguchi, M., Manalastas, E.J., & Louis, W. R.
2. 発表標題 Considering culture and extending emotions in mobilizing collective action
3. 学会等名 2017 Asian Association of Social Psychology Annual Conference (AASP) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ochoa, D.P., Chan, R.C.H., Ma, G.Y.K., Manalastas, E.J., & Deguchi, M.
2. 発表標題 Collective action in Asia: Social psychological studies in Japan, Hong Kong, and the Philippines
3. 学会等名 21st Annual Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Deguchi, M.
2. 発表標題 Teaching about “male privilege” and sexual violence in Japan: A focus on train molestation
3. 学会等名 SIETAR Europa Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 無意識・無自覚的な差別意識に気づくための心理学的アプローチ
3. 学会等名 経営倫理実践研究センター（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 マジョリティの特権から差別を考える視点
3. 学会等名 2017大人教夏季研人権教育セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 マジョリティの特権を考える
3. 学会等名 第112期 部落解放・人権大学講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 マジョリティの特権を考える
3. 学会等名 第30回 2017年度人権啓発東京講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 Teaching about privilege and social justice in a Japanese university: Challenges and possibilities
3. 学会等名 ソフィアシンポジウム(上智大学)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 マジョリティ特権の自覚こそが多文化社会に必要な要因
3. 学会等名 第24回多文化間精神医学会学術総会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 「マジョリティの特権を考える・好意的セクシズム」人権啓発シリーズ
3. 学会等名 中部電力(株)三重支店(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渋谷恵
2. 発表標題 日本の教員養成課程における『特権に気づくための教育』の現状と課題
3. 学会等名 ソフィアシンポジウム(上智大学)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渋谷 恵
2. 発表標題 多様性と共に生きる
3. 学会等名 群馬県主催 「2017年度外国につながる子どもたちを地域で支える心理コーディネーター養成講座」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮崎 幸江
2. 発表標題 神奈川県の一都市における過去3年間の『特別の教育過程』編成の取り組みー DLAアセスメント導入による外国人児童生徒の言語能力把握
3. 学会等名 日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮崎 幸江
2. 発表標題 CLD児童の言語習得とアセスメントーDLAの可能性について
3. 学会等名 南米日本語教育シンポジウム2017: 南米における日本語教育の現在と未来ー日系社会のポテンシャル
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮崎 幸江
2. 発表標題 外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援における大学と行政の連携
3. 学会等名 関西学院大学人権 教育研究室公開シンポジウム「外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援活動を考える」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本光代
2. 発表標題 多様化するニーズとは：継承語学習者の超多様性を考察する
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 坂本光代
2. 発表標題 日本人が英語を学ぶ意義：複言語主義の観点から
3. 学会等名 第66回全日本英語教育者会議（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 多様化する日本の学校教育と多文化共生の課題
3. 学会等名 フランス大使館主催、上智大学共催「日仏討論会：移民政策と日本社会」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Deguchi, M., Ochoa, D.P., Manalastas, E.J., Zdral, A., & Louis, W. R.
2. 発表標題 Extending emotions in mobilizing collective action: Comparing anger, shame, and hope in Japan, the Philippines, and Australia (Poster)
3. 学会等名 the 23rd International Congress, International Association for Cross-Cultural Psychology (IACCP) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Deguchi, M., Manalastas, E.J., Ochoa, D.P., Qumseya, T. & Louis, W. R.
2. 発表標題 Anticipated stigma & ally collective action in Japan, the Philippines & New Zealand
3. 学会等名 the 23rd International Congress, International Association for Cross-Cultural Psychology (IACCP) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Deguchi, M.
2. 発表標題 Social justice education in a “homogeneous” society: Does teaching about privilege work in Japan? (TED-Style Talk)
3. 学会等名 the 16th Annual Conference, SIETAR USA (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 第14回全学教職員FD研修会「マイノリティが心地良いキャンパスを作るには～特権に無自覚なマジョリティ側への教育の必要性～」
3. 学会等名 筑波大学グローバル・commons機構、学生交流課、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 差別に対する無関心に関心に変えるためのマジョリティに向けた教育
3. 学会等名 共催) ヒューライツ大阪、教育大学職研究センター、大阪市立学院創造都研究科 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口真紀子
2. 発表標題 明治学院大学心理学部教育発達学科 第2回 国際教育フォーラム みんなに開かれた学校づくりのために～多文化化する学校における「マジョリティ」を考える～
3. 学会等名 (主催) 明治学院大学心理学部教育発達学科 (後援) 港区教育委員会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渋谷恵
2. 発表標題 外国につながるのある子どもたちを地域で支える心理コーディネーター養成講座 「多様性と共に生きる」
3. 学会等名 群馬県主催 (外国人児童生徒教育・心理サポート事業) (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 出口真紀子 (杉浦未希子・水谷裕佳編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 257
3. 書名 『グローバル教育を実践する 多様な領域からのアプローチ』	

1. 著者名 出口真紀子 (ロビン・ディアンジェロ著、甘糟智子訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 『ナイス・レイシズム なぜリベラルなあなたが差別するのか』	

1. 著者名 渋谷恵	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本国際理解教育学会	5. 総ページ数 115
3. 書名 「国際理解教育に求められる新たな資質としての市民性を求めて」『ユネスコ 1974 年国際教育勧告から日本の「国際理解教育」政策を問う 「国際理解教育」の推進を阻害しているものは何か（日本国際理解教育学会研究実践委員会編）』	

1. 著者名 田村梨花（伊藤秋仁・岸和田仁編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 「第48章：格差と分断を乗り越える 市民社会の行動から学ぶ」『ブラジルの歴史を知るための50章』	

1. 著者名 小池洋一・子安昭子・田村梨花編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 現代企画室	5. 総ページ数 501
3. 書名 『ブラジルの社会思想－人間性と共生の知を求めて』	

1. 著者名 坂本光代（編）・杉村美紀・出口真紀子・渋谷恵・宮崎幸江・田村梨花	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 228
3. 書名 『多様性を再考する：マジョリティに向けた多文化教育』	

1. 著者名 田村梨花	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 『ブラジルの歴史を知るための50章』伊藤秋仁・岸和田仁(編著)	

1. 著者名 田村梨花(畑恵子・浦部浩之(編))	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 328
3. 書名 『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』内「草の根から世界を変える ブラジルの社会運動と世界社会フォーラム」	

1. 著者名 松永あけみ・水戸博道・渋谷恵(編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 362
3. 書名 『教育発達学の展開：幼小接続・連携へのアプローチ』	

1. 著者名 出口真紀子(訳)(アリシア・ガーザ(著)人権学習コレクティブ(監訳))	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 『世界を動かす変革の力：ブラック・ライブズ・マター共同代表からのメッセージ』	

1. 著者名 出口真紀子 (岩淵功一 (編著))	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 240
3. 書名 『多様性との対話：ダイバーシティ推進が見えなくするもの』	

1. 著者名 近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美 (編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 『親とをつなぐ継承語教育：日本・外国にルーツを持つ子ども』	

1. 著者名 出口真紀子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 332
3. 書名 『北米研究入門2：「ナショナル」と向き合う』「第6章 白人性と特権の心理学 植民地時代からトランプ以後まで」	

1. 著者名 Sugimura, M. (Edited by S.S. Teng, M. Manzon & K. K. Poon)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 198
3. 書名 Equity and excellence in East Asian high-performing education systems: A paradoxical relationship?	

1. 著者名 田村梨花・三田千代子・拝野寿美子・渡会環 共編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 『ブラジルの人と社会』	

1. 著者名 小池洋一・田村梨花 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 現代企画室	5. 総ページ数 319
3. 書名 『抵抗と創造の森アマゾン 持続的な開発と民衆の運動』	

1. 著者名 坂本光代（本田弘之・松田真希子編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 272
3. 書名 『複言語・複文化時代の日本語教育』	

1. 著者名 杉村美紀（石井香代子編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 『国際社会学入門』	

1. 著者名 出口真紀子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 344
3. 書名 『真のダイバーシティをめざして 特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』	

1. 著者名 田村梨花（ブラジル日本商工会議所編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 254
3. 書名 『【新版】現代ブラジル事典』	

1. 著者名 宮崎幸江（本田弘之・松田真希子編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 272
3. 書名 『複言語・複文化時代の日本語教育』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉村 美紀 (SUGIMURA Miki) (60365674)	上智大学・総合人間科学部・教授 (32621)	
研究分担者	出口 真紀子 (DEGUCHI Makiko) (10593494)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渋谷 恵 (SHIBUYA Megumi) (40312805)	明治学院大学・心理学部・教授 (32683)	
研究分担者	田村 梨花 (TAMURA Rika) (50349031)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	宮崎 幸江 (MIYAZAKI Sachie) (60442125)	上智大学短期大学部・英語科・教授 (42717)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関